

啓示 7:15 の「大群衆」はどこにいますか。

エホバの証人の中核をなす教理のうちの 1 つは、この節の中で描かれた「大群衆」のグループが地上に属するという事です。

エホバの証人は、144,000 人の「小さな群」だけが、天においてキリストと共に位に就き、買い戻された人類の大部分は地上で永遠の命に恵まれると信じています。

すなわち、ものみの塔協会の主な教理のひとつは、クリスチャンには 2 つのクラスが実際に存在するというものです。

天的なクラスと地的なクラスです。

彼らは、キリストが天的クラスの「油が注がれた」144,000 人の成員だけのための仲介者であることを教えられます。

この 2 クラスについての教義は 1980 年にフルックリンベテル中を動揺させる大きな問題となりました。この問題がベテル内だけでは収まらなかったため、出版物で明確にするという発表がなされ、ものみの塔に記事が載りました。日本語版では 1980 年 11 / 15 号にあります。その問題というのは啓示 7 : 15 の大群衆は「神殿」にいるので大群衆は天にいるはずだと言うような事でした。

それを理解するには、神殿に関する 2 つのギリシャ語を理解する必要があります。

ナオス (ναός) とヒエロン (ἱερόν) です。通常この二つは両方とも同じ単語 [TEMPLE(英語)] [神殿(日本語)] に訳されますので、原語を見ないと区別が付きません。

ヒエロンとはその全ての副次的な構造と中庭を含む、神殿の複合体全体を意味するギリシャ語の単語です。

ナオスは聖所、至聖所を含んでいた神殿複合体の内部の避難所 (サンクチュアリ) を指します。そしてこの「ナオス」は天そのものを表します。

これらの 2 つの用語の相違は、1960 年 8 月 15 日のものみの塔の中でよく定義されています。次ページのコピーの囲んだ部分をご覧ください。

その記事は両替屋や動物を神殿で売っていた記述について (ヨハネ 2 章) について説明して、「使徒時代の神殿」というタイトルの元に 493P の 2 段落目以降にこう説明されています。

(次ページの、抜粋した英文の日本語訳)

様々な往来をするための余地を持つどんな種類の建物がありましたか
実はこの神殿は単に一つの建物ではなく神殿の避難所を中心とした一連の構造物でした。
原語ではこれはまったく明らかになります。聖書筆者はこの NAOS と HIERON を使い分けています。
HIERON は神殿敷地全体 (エリア) を指しました。しかし NAOS は神殿の構造物自体 (荒野の幕屋の後継) に当てはまる。
従ってヨハネは、イエスがこの HIERON を往来したことを伝えています。

the TEMPLE of the apostles' time

THE passage of the year 30 (A.D.) was drawing on apace as Jesus Christ "went up to Jerusalem. And he found in the temple those selling cattle and sheep and doves and the money-brokers in their seats. So, after making a whip of ropes, he drove all those with the sheep and cattle out of the temple and he poured out the coins of the money-changers and overturned their tables. Therefore . . . the Jews said to him: "What sign have you to show us, since you are doing these things?" In answer Jesus said to them: "Break down this temple, and in three days I will raise it up." —John 2:13-15, 18, 19.

It may well be asked, What kind of building could this be that had room for all this traffic? The fact is that this temple was not just one building but a series of structures of which the temple sanctuary was the center. In the original tongue this is made quite clear, the Scripture writers distinguishing between the two by the use

of the words *hierón* and *naós*. *Hierón* referred to the entire temple grounds, whereas *naós* applied to the temple structure itself, the successor of the tabernacle in the wilderness. Thus John tells that Jesus found all this traffic in the *hierón*. But when Jesus likened his body to a temple he used the word *naós*, meaning the temple "sanctuary," as noted in the footnote of the *New World Translation*.

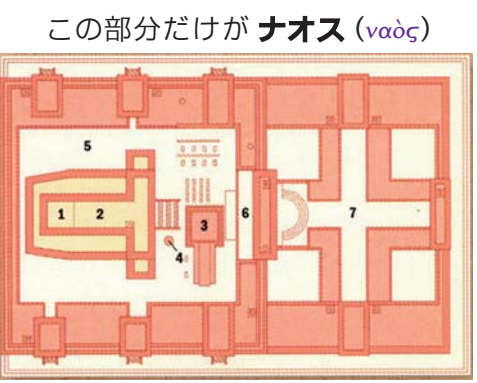
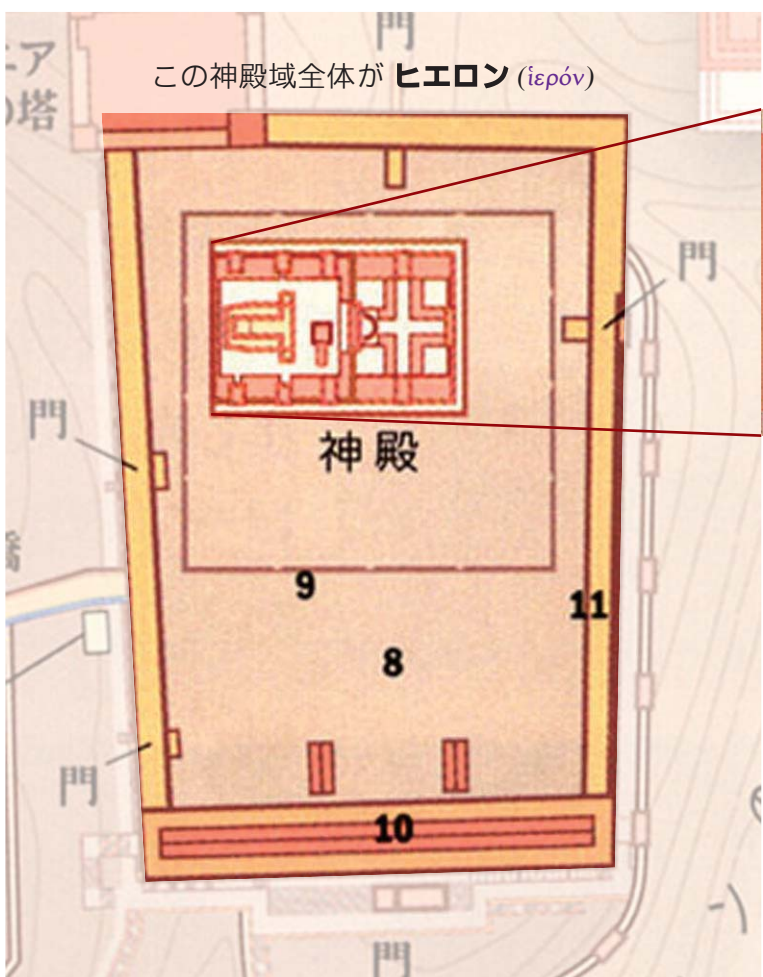
This series of structures of the apostles' time was rebuilt by King Herod. That sensual and bloodthirsty Idumean ruler was loathed by his Jewish subjects as much for his outraging their religious susceptibilities as for his wanton murders, such as that of his wife Mariamne, a Hasmonean princess. Wanting to ingratiate himself with them, and at the same time to feed his inordinate pride, he proposed the rebuilding of their temple, which, after about five hundred years, was showing signs of decay.

1960年8月15日
ものみの塔 (英文)



上の囲んだ部分

What kind of building could this be that had room for all this traffic? The fact is that this temple was not just one building but a series of structures of which the temple sanctuary was the center. In the original tongue this is made quite clear, the Scripture writers distinguishing between the two by the use of the words *hierón* and *naós*. *Hieron* referred to the entire temple grounds, whereas *naos* applied to the temple structure itself, the successor of the tabernacle in the wilderness. Thus John tells that Jesus found all this traffic in the *hierón*.



- | 神殿の各部 | |
|--------------|------|
| 1. 至聖所 | ナオス |
| 2. 聖所 | |
| 3. 焼燔の捧げ物の祭壇 | |
| 4. 鍔物の海 | |
| 5. 祭司の中庭 | |
| 6. イスラエルの中庭 | |
| 7. 婦人の中庭 | |
| 8. 異邦人の中庭 | ヒエロン |
| 9. 障壁(ソーレグ) | |
| 10. 王の柱廊 | |
| 11. ソロモンの柱廊 | |

啓示7：15節に見られる「神殿」(ナオス)のギリシャ語

ἀρνίου.	15	διὰ	τούτο	εἰσιν	ἐνώπιον	b
Lamb.		Through	this	they are	in sight	1
τοῦ		θρόνου	τοῦ	θεοῦ,	καὶ	a
of the		throne	of the	God,	and	o
		λατρεύουσιν		αὐτῷ	ἡμέρας	r
they are		rendering sacred service		to him	of day	s
καὶ	νυκτὸς	ἐν τῷ	ναῶ	αὐτοῦ,	καὶ	i
and	of night	in the	divine habitation	of him,	and	o
ὁ	καθήμενος	ἐπὶ τοῦ	θρόνου	σκηνώσει		t
the (one)	sitting	upon the	throne	will tent		t

ギリシャ語逐語訳聖書 (ものみの塔協会発行)

[ナオー (神殿)] ναῶ と同型が使われている全聖句リスト

青色は日本語訳

マタイ 23:16

Οὐαὶ ὑμῖν, ὁδηγοὶ τυφλοὶ οἱ λέγοντες ῥῶς ἂν ὁμῶς ἐν τῷ ναῶ, οὐδὲν ἐστιν ῥῶς δ' ἂν ὁ μῶς ἐν τῷ χρυσοῦ τοῦ ναοῦ, ὀφείλει.

神殿

マタイ 23:21

καὶ ὁ ὁμῶς ἐν τῷ ναῶ ὁμνυεὶ ἐν αὐτῷ καὶ ἐν τῷ κατοικοῦντι αὐτόν,

神殿

ルカ 1:21 αὶ ἦν ὁ λαὸς προσδοκῶν τὸν Ζαχαρίαν καὶ ἐθαύμαζον ἐν τῷ χρονίζειν ἐν τῷ ναῶ αὐτόν.

聖なる所

ルカ 1:22 ἐξελθὼν δὲ οὐκ ἐδύνατο λαλήσαι αὐτοῖς καὶ ἐπέγνωσαν ὅτι ὀπτασίαν ἐώρακεν ἐν τῷ ναῶ καὶ αὐτὸς ἦν διανεύων αὐτοῖς καὶ διέμενον κωφός.

聖なる所

コリント II 6:16 τίς δὲ συγκατάθεσις ναῶ θεοῦ μετὰ εἰδώλων; ἡμεῖς γὰρ ναὸς θεοῦ ἐσμὲν ζῶντος, καθὼς εἶπεν ὁ θεὸς ὅτι ἐνοικήσω ἐν αὐτοῖς καὶ ἐμπεριπατήσω καὶ ἔσομαι αὐτῶν θεός καὶ αὐτοὶ ἔσονται μοι λαός.

神殿

神殿

啓示 3:12 ὁ νικῶν ποιήσω αὐτόν στύλον ἐν τῷ ναῶ τοῦ θεοῦ μου καὶ ἔξω οὐ μὴ ἐξέλθῃ ἔτι καὶ γράψω ἐπ' αὐτόν τὸ ὄνομα τοῦ θεοῦ μου καὶ τὸ ὄνομα τῆς πόλεως τοῦ θεοῦ μου, τῆς καινῆς Ἱερουσαλήμ ἢ καταβαίνουσα ἐκ τοῦ οὐρανοῦ ἀπὸ τοῦ θεοῦ μου, καὶ τὸ ὄνομά μου τὸ καινόν.

神殿

啓示 7:15 διὰ τοῦτο εἰσιν ἐνώπιον τοῦ θρόνου τοῦ θεοῦ καὶ λατρεύουσιν αὐτῷ ἡμέρας καὶ νυκτὸς ἐν τῷ ναῶ αὐτοῦ, καὶ ὁ καθήμενος ἐπὶ τοῦ θρόνου σκηνώσει ἐπ' αὐτούς.

神殿

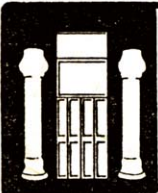
啓示 11:19 Καὶ ἡνοίγη ὁ ναὸς τοῦ θεοῦ ὁ ἐν τῷ οὐρανῷ καὶ ὤφθη ἡ κιβωτὸς τῆς διαθήκης αὐτοῦ ἐν τῷ ναῶ αὐτοῦ, καὶ ἐγένοντο ἀστραπαὶ καὶ φωναὶ καὶ βρονταὶ καὶ σεισμὸς καὶ χάλαζα μεγάλη.

神殿

神殿

これらの資料から、啓示7：15に示される「大群衆」は明らかに「ナオス」において奉仕を捧げているとヨハネは記していることが分かります。
すなわち、大群衆は靈的神殿（神の居住地）である天そのものにいることを聖書は明確に示しています。

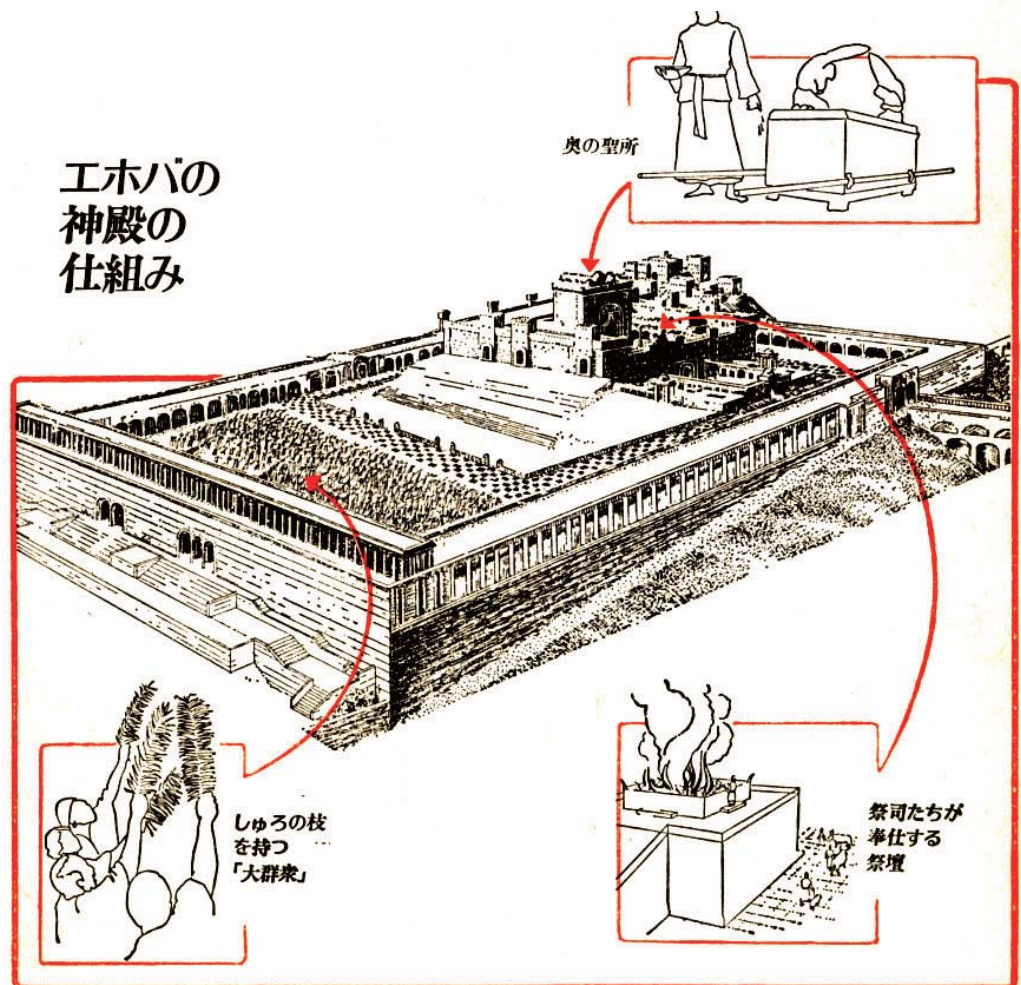
では、冒頭で述べた、出版物で明らかにすると言われた、ものみの塔1980年の11/15号では、このことはどのように扱われたのでしょうか。
2週にまたがるこの件に関する研究記事で神殿と訳されている二つの語句のうち「ナオス」というギリシャ語についてだけ、執拗に言及しているのに対し「ヒエロン」については全く口を閉ざしています。



ギリシャ語ナオスは、天そのものを表わす奥の聖所を指すことが多い

- しかし、46年かかって建てられたのは神殿[ナオス]全体であった
- 神の裁きを受けて破壊されたのは神殿[ナオス]全体であった
- イエスが両替屋を追い出されたのは、外の神殿[ナオス]の中庭からであった
- ユダが銀30枚を投げ捨てたのは、外の神殿[ナオス]においてであった
- したがって、「大群衆」が靈的神殿の地上の中庭で神に奉仕することは矛盾していない

エホバの 神殿の 仕組み



挿絵には「大群衆」は聖書の記述とは違い、「ナオス」ではなく「ヒエロン」の「異邦人の中庭」にいるように描かれています。

そして、15頁の欄外の「まとめ」には
46年かけて建てられた神殿〔ナオス〕

両替屋を追い出した神殿〔ナオス〕

ユダが銀貨を捨てた神殿〔ナオス〕

と、四つの例を挙げた後、ゆえに大群衆が神殿(何故かここの部分だけ〔ナオス〕の挿入がない)の地上の中庭にいることは矛盾しないと説明されています。

では、この四つ挙げられた〔ナオス〕を一つずつ聖句から検討してみることにしましょう。

まず、〔46年かけて建てられた神殿(ナオス)〕

(ヨハネ 2:20) …「この神殿は四十六年もかけて建てられたのに、それを三日で立てるとい
うのか」…

εἶπαν οὖν οἱ Ἰουδαῖοι ἑτεσσεράκοντα καὶ ἐξ ἑτεσιν οἰκοδομήθη ὁ ^{ナオス} ναός οὗτος, καὶ σὺ ἐν
τρισὶν ἡμέραις ἐγερεῖς αὐτόν;

確かに「46年かけて建てられた神殿」は「ナオス」でした。

しかし、そうだからと言って、大群衆のいる「ナオス」が「ヒエロン」の「異邦人の中庭」であるという説明に矛盾はない。と主張するどんな根拠になり得るのでしょうか。

この両者には何の関わりもありません。

では次に、〔両替屋を追い出した神殿(ナオス)〕

(マタイ 21:12) …イエスは神殿の中に入り、神殿で売り買いしていた者たちをみな追い出し、両替屋の台と、はとを売っていた者たちの腰掛けを倒された…

Καὶ εἰσῆλθεν Ἰησοῦς εἰς τὸ ἱερόν καὶ ἐξέβαλεν πάντας τοὺς πωλοῦντας καὶ ἀγοράζοντας ἐν τῷ
ヒエロン ^{ἱερῷ}, καὶ τὰς τραπέζας τῶν κολλυβιστῶν κατέστρεψεν καὶ τὰς καθέδρας τῶν πωλοῦντων

(マルコ 11:15) …そこでイエスは神殿の中に入り、神殿で売り買いしていた者たちを追い出し始め、両替屋の台と、はとを売っている者たちの腰掛けを倒された。

…καὶ εἰσελθὼν εἰς τὸ ἱερόν ἤρξατο ἐκβάλλειν τοὺς πωλοῦντας καὶ τοὺς ἀγοράζοντας ἐν τῷ
ヒエロン ^{ἱερῷ}, καὶ τὰς τραπέζας τῶν κολλυβιστῶν καὶ τὰς καθέδρας τῶν πωλοῦντων τὰς περιστεράς

(ルカ 19:45) …それからイエスは神殿の中に入り、物を売っている人たちを追い出し始め…

Καὶ εἰσελθὼν εἰς τὸ ^{ἱερόν} ἤρξατο ἐκβάλλειν τοὺς πωλοῦντας
ヒエロン

(ヨハネ 2:15) …縄でむちを作ると、それらの者をみな羊や牛もろとも神殿から追い出し、両替屋の硬貨をまき散らし、彼らの台を倒された…^{ヒエロン}

καὶ ποιήσας φραγέλλιον ἐκ σχοινίων πάντας ἐξέβαλεν ἐκ τοῦ ^{ἱεροῦ} τὰ τε πρόβατα καὶ τοὺς βόας, καὶ τῶν
κολλυβιστῶν ἐξέχεεν τὰ ἄτομα κέρματα ἄκέρμα καὶ τὰς τραπέζας ἀνέστρεψεν,

4福音書すべて、つまりマタイもマルコもルカもヨハネも、両替屋を追い出した神殿は〔ヒエロン〕であると記述しておりナオスではありません。こちらは明らかに間違い、…と言うより、これはこの記事の最も本質的な目的、テーマなので、うっかり間違っただけではなく、あからさまな虚偽であると言わねばなりません。

では次に、[ユダが銀貨を捨てた神殿(ナオス)]

(マタイ 27:5) …それで彼はその銀を神殿に投げ込んで引き下がり、去って行って首をつつて死んだ…

καὶ ῥίψας τὰ ἀργύρια εἰς τὸν ναὸν, ἀνεχώρησεν

こちらは確かに[ナオス]でした。

しかしこれまた、そうだからと言って大群衆のいる「ナオス」が「ヒエロン」の「異邦人の中庭」とであると主張する、何の根拠になりません。

この1980/11/15の記事は、「神殿」と訳されるギリシャ語は「ナオス」という1語だけであって、ナオスは、聖所をさすこともあれば、神殿域全体を指すこともあるという印象を与えようとしていることは明らかです。

なぜならば、「したがって、「大群衆」が(ナオスにいと表現されていてもそれはナオスの中にある中庭に違いないので)霊的神殿の地上の中庭で神に奉仕することは矛盾しない」という結論を持ち出していることから、その意図があることは明白です。

これほどまでに涙ぐましい努力をして、大群衆は地上にいるという印象を与えようと奮闘していますが、しかし、「ナオス」には決して「中庭」などは存在しません。

「ナオスの中庭」という表現は意識的な誤導以外の何物でもないと言わざるを得ません。

「大群衆」に関する代表的な説明

*** 塔 73 3/1 153 ページ 22 節 ***

この美しい幻の中で、国際的な『大いなる群衆』は、エホバの神殿で、すなわち霊的なイスラエル人でない人たちのためにあらかじめ指定されていた地的な中庭で、あたかも「異邦人の中庭」でも仕えているかのように、エホバに仕えている者たちとして示されています

*** 塔 96 7/1 20 ページ 4 節 ***

予告されていたとおり、大群衆は「その神殿で昼も夜も[神を]崇拝してい(ます)」。 (啓示 7:15, 脚注) 彼らは祭司を務める霊的イスラエル人ではないので、恐らくヨハネは彼らが神殿域の、異邦人のための外の中庭に立っているのを見たのでしょう。

結論：ともかく、啓示 7:15に限らず、一貫して聖書は「大群衆」は天にいるものとして描写していることは紛れもない事実です。

(啓示 7:9,15) …だれも数えつくすことのできない大群衆が、白くて長い衣を着て、み座の前と子羊の前に立っていた。…彼らは自分の長い衣を子羊の血で洗って白くした。それゆえに神のみ座の前にいるのである。そして、その神殿で昼も夜も神に神聖な奉仕をささげている

(啓示 19:1,6) …わたしは大群衆の大きな声のようなものを天に聞いた…

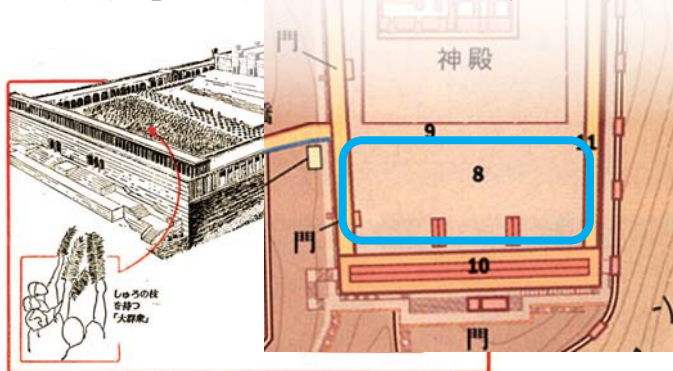
7ページに、「ものみの塔」80/11/15の挿絵を掲載しましたが、最後にも言う一度、この部分に言及しておきたいと思えます。

「大群衆」がいるとされる場所は下の図に青四角で囲った部分で「異邦人の中庭」とされているエリアです。

もし「異邦人の中庭」にいるのが「大群衆」だとすると、彼らは、「諸国民」であり42ヶ月間、真のクリスチャンを迫害する者の実体であるということになってしまいます。

(啓示 11:1-2)「それから、杖のような一本の葦がわたしに与えられ、その際に彼はこう言った。「立って、神の神殿の聖なる所と祭壇とそこで崇拜する者たちを測りなさい。しかし、神殿〔言語：ナオス〕の外側にある中庭は、これをまったくほって置き、そこを測ってはならない。それは諸国民に与えられているからである。彼らは聖なる都市を四十二か月のあいだ踏みこむであろう。」(啓示 11:7) …そして、彼らが自分たちの証しを終えた時、底知れぬ深みから上る野獣が彼らと戦い、彼らを征服して殺すであろう。

「大群衆」に関するものみの塔の説明を併せた上で聖句に照らして説明するとこういうことにな



ものみの塔 - 1980年11月15日

17

なります。つまり「大群衆」は、クリスチャンかと思いきや実は「諸国民」で「底知れぬ深みから上がって来て、手にやしの杖を持ち、神を賛美しながら、聖なるものたちを殺して「大患難から出て来る者たちで、それゆえに「白くて長い衣を与えられる」ことになる。ということです。断っておきますが、私がこう言っている

わけではありません。飽くまで、別々に解説されている「ものみの塔」の説明を一つにまとめているだけです。そして、さらに「大群衆」の正体は、神を冒瀆する、海から上がる「野獣」であることも明らかになります

(啓示 13:5 - 7)「大いなることや冒とく的なことを語る口がそれに与えられ、また、四十二か月のあいだ行動する権威が与えられた。そして、それは口を開いて神を冒とくした。そのみ名と住まい、さらには天に住

む者たちを冒とくするためであった。そして、聖なる者たちと戦って彼らを征服することが許され、あらゆる部族と民と国語と国民に対する権威がそれに与えられた。」

「大群衆」に関する一連の説明が、こうした支離滅裂な結果を生むことを、気付かないはずはないと思えますが、この11/15の記事は、次のように断言しています。

神殿あるいは聖所すなわちナオスが奥の聖所だけを意味するのではなく、その造営物すべてを含む神苑全体を意味することは明白です。—塔 80 11/15 15 ページ 5 節

この記述は決して勘違いや間違いではなく、意図的であからさまな虚偽であり、その虚偽を証明するために必要なものは、聖書と過去のものみの塔の記事だけで充分です。

